

# 風立ちぬ

風の街の中学校の窓から

庄内町立立川中学校  
学校だより  
2016. 3. 22

文責：校長 石崎幸宏

## 新たな人生への船出 (その2)

### 門出の言葉

(卒業式「旅立ち」卒業生代表「門出の言葉」から抜粋)



最上級生になり、学校の顔として、活躍が求められる学年になりました。生徒会スローガン「SHINKA」。「進歩すること」「深めていくこと」「真の価値」。様々な思いをここに込めました。伝統でもあるあいさつや、心に残る合唱をさらに高めるために、活動を行ってきました。また、委員会でも、学校を良くしようと多くの取り組みを

行い、頑張ってきました。

最後の地区総体。それまで、全員が同じ目標に向かって、お互い励まし合いながら頑張ってきました。練習にくじけそうになったときも、仲間がいたからこそ乗り越えることができました。支えてくれる人への感謝・あいさつ・礼儀。人として大切なものをたくさん教わりました。3年間の部活動で出来た絆や思い出は一生の宝物です。

全校で取り組んだ運動会。グラウンドには多くの水たまり。でも、生徒、先生方、保護者の方々が協力し合って丁寧に整備しました。少しでも良い環境で競技したいという一人一人の思いが表れていました。その思いは、熱く、盛り上がった最高の運動会になりました。

強くなった絆をさらに深めていった文化祭。全員の心が1つになることで得られる喜びや感動。美しいハーモニーを奏でた合唱は立中生の「真価」を発揮した瞬間でした。

やがて冬を迎え、それぞれが自分の進路と向き合う時期がやって来ました。自分達の課題に気づき、声をかけ合って、これまで少しずつ受験に向かう雰囲気を高めてきました。

そして、身近な家族の存在。今日の日を無事に迎えられたのは家族のおかげです。中学校3年間、そして生まれてから15年間、たくさんの愛情を注ぎ、大事に育ててください、ありがとうございました。これからも温かい目で見守ってください。支えられていることに感謝しながら、1つ1つ壁を乗り越えていきます。

ここに来るまでの道が、いつも平たんだったわけではありません。でも、真剣に話を聴いて、励ましてくれたのは友達でした。仲間たち

と、一緒に学校生活を送ったという事実は、どんなに時を重ねても、決して消え去ることはありません。

在校生の皆さん、私たちはようやくわかりました。本当に大切なものは、普通の生活の中にあったことに……。皆さんには、まだ多くの時間が残っています。一日一日を大切に、充実した学校生活の中で、友達とともにたくさんの思い出を作っていくてください。

3年間、この学校でたくさんの仲間と過ごすことができ、とても幸せでした。この思い出を大切にして、4月から新しい舞台で、夢に向かい、自分で決めた道を精一杯、胸を張って生きていきます。私たちを大切に育ててくださった全ての方々に感謝し、今後の立川中学校の、ますますのご発展をお祈りいたします。

### 送る言葉

(卒業式「旅立ち」在校生代表「送る言葉」から抜粋)

「SHINKA」。このスローガンのもと、立中を引っばってきた先輩方。「生徒一人一人が主役になれる学校」を目指して、全校のために一生懸命頑張る3年生の姿がいつもありました。

先輩たちの明るい挨拶は校内にとどまらず、地域でも響いていました。

先輩たちに、最も身近に接することができたのは部活動でした。常に全力で練習に取り組む姿は、いつも輝いていて憧れました。「よく頑張った!」「ドンマイ」「大丈夫?」たくさんの言葉が心に残っています。

全校で歌った「最上川舟唄」は、昨年よりもさらに磨かれ、素晴らしいハーモニーを響かせました。人数が少なくなっても、一人一人がしっかりと責任をもち、心を合わせて心1つに取り組み、文化を後退させることなく、さらに発展、進化させることができるという確信を、先輩たちは僕たちにはっきりと残してくださいました。

今年、先輩たちは僕たちにはっきりと示してくださいました。「SHINKA」。縮小、後退ではなく学校を進化させるのだということ。高い目標を掲げ、自らを磨く努力を惜しんではならないこと。人まかせにせず、一人残らず全員がしっかりと自分に責任をもって、「一人一人が主役」となって輝く学校、生徒会をつくらねばならないということ。

今日、立中を旅立たれる先輩達に、僕たちは、次のことを誓います。

- 1 人まかせにせず、全員がしっかりと自分の責任を果たし、一人一人が輝く立中をつくります。
- 2 地域や社会、世界への視野を広げ、多くの人と関わって役に立てる立中学生をめざします。

生徒の数が少なくなっても、立中を「小さな学校」にはしません。立中をさらに「SHINKA」させ、広い視野をもって全員が輝く学校にしたいことを誓って、先輩たちのバトンは今しっかりと受け取ります。卒業生のみなさん、今まで本当にありがとうございました。

